

国語の目的と系統性、内容の再整理

国語WGにおける検討事項・論点② 2

- ・各領域の**学習過程**の再整理
- ・発達段階に応じて扱う話や文章の種類の**系統性**
の再整理等

名古屋大学教育発達科学研究科
渡邊 雅子

課題設定

- 日本の国語教科書は、他国と比較してもレベルが高い。すでに言語学習に必要不可欠な多様な要素を、系統的・発達段階的に配置している。

課題になるのは、「いかにカリキュラム**編成の原理**＝具体的には教科書の構成原理の**骨組みを浮かび上がらせるか**」

→その原理の現場との共有によって、教科書「を」教えるから教科書「で」教えることが可能になるのではないか。

編成原理を考えるには、まず国語の目標（目的）の共有が必要。

国語教育の全体像を学校種による縦割りを越えて教員が共有する

次の時代の教育目標とリテラシー（私案）

（読み・書き・思考する力）

目標（私案）

- 伝統的な自然観―「自然の一部としての人間」―をもとに、
共感的利他を中心的な価値とする安全・安心な社会を築き、
「**多元的思考**」を**技術**として使いこなして異なる他者と協働し、新たな価値を創造できる人間を育成する。

リテラシーの二側面

- **文化的側面**：伝統的かつ次の時代に不可欠な**自然観**と共感的利他の育成→日本の自然観、人間観、世界観を表す作品の読解（俳句・詩・物語・説明文・評論等）⇐すでに行われている
- **技術的側面**：**多元的思考の4領域**→感想文（**社会**）→英語で5パラグラフエッセイを書きこの型で話す（**経済**）→仮説検証/科学的探究の手続き（**法技術**）→小論文/概念と理論を使って考え書き実証する（**政治**）と、**重点的に学ぶ作文様式を発達段階/学校種に沿って移行させ四つの異なる領域の論理**を習得する（段階的作文教育と呼ぶ）。

その構成原理①

抽象度を中心にした国語カリキュラムの全体像

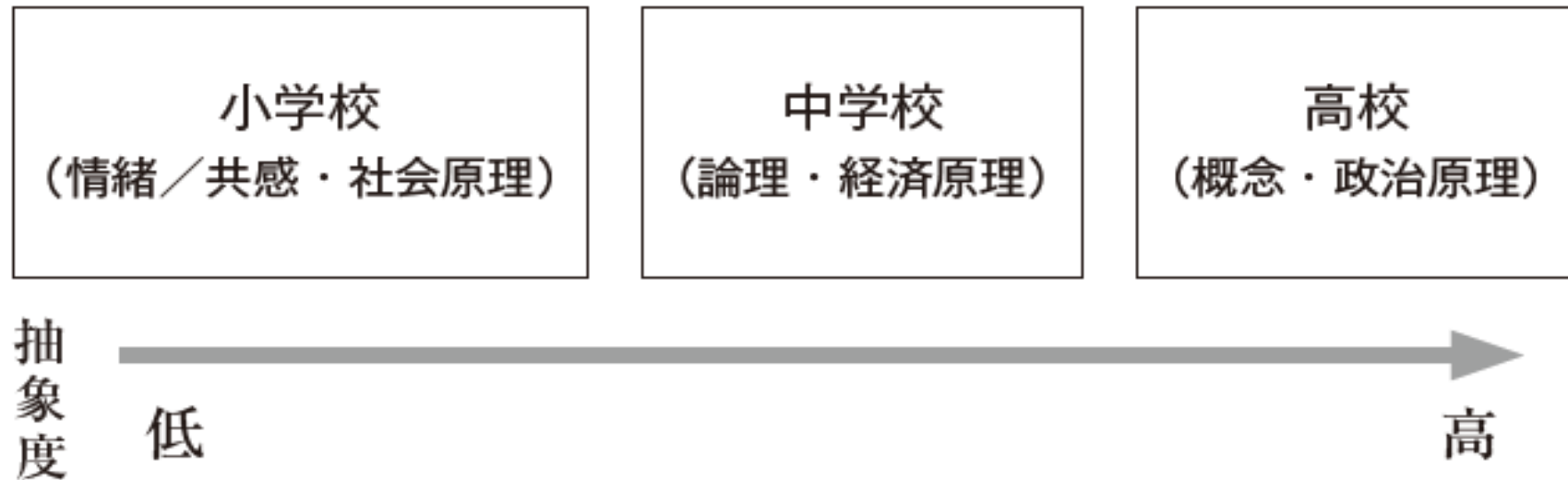


図 3-1 利他と多元的思考を育む教育の全体像

構成原理②

リテラシーの**文化的**側面と**技術的**側面

- **文化**の2つの要素：①情緒と道德観、②文化的な知識と教養
(漢字の習得・ことわざ・俳句・古典・漢文の知識)
- **技術**を教える (複数の文章様式の段階的習得)

各文章様式は・・

明確な**目的** (機能) と**手段** (構成と表現) を持つ

描写→物語→説明→説得 ⇒ 意見文→仮説検証→小論文



【4つの基本的文章様式】 ⇒ 【論証 + 科学的探究 + 社会科学的思考】

段階的作文教育

(『共感の論理』 p.121より)

表 3-1 段階的作文法による教育のグランドデザイン

	小学校	中学校	高校	大学
思考法	情緒的思考	論理的思考	抽象的思考	相対化する思考 専門分野の思考
知識の形態	経験的知識	道具としての知識	概念的知識	系統的知識
書く様式	感想文 (描写・物語・説明)	意見文 (説得)	リサーチペーパー (仮説検証) 小論文 5パラグラフエッセイ	リサーチペーパー (仮説検証) 卒業論文

高校で文章様式の目的と手段をレトリックとして俯瞰的に教える（習得済みの技術を知識として定着させる）

表 1 4 つの基本文章様式の特徴

	目的	重要な情報（内容）	情報の配置方法＝論理
描 写	事物を一枚の絵を見せるように読み手の心に再現させる事	5感から得られる情報	空間的配置
物語	登場人物の体験を通した変化や成長を描く事	5W 1H の情報、物語の設定、登場人物、展開・結末、語りの視点	時間的経過 物語の基本プロット
説 明	事物の構造、機能、意味、価値を解き明かし納得させる事	事実、事例、歴史的成立過程、原因・結果、原理と仕組み、比較対照など	原因→結果（逆も可） 外面→内的原理（逆も可） 2 項対立・分類・類型
説 得	書き手の主張に読み手を同意させ、意見を変えさせたり、行動を起こさせたりする事	事例、統計、専門家の意見、諺、逸話、強烈な個人的体験など	重要度の低い情報→高い情報（逆も可） 逸話・体験→客観的データ（逆も可）

主な様式の比較：論証の方法を教える意見文、探究の方法を教える仮説検証と小論文（高大接続）

意見文	仮説検証	小論文
主張 本論 主張を支持する根拠 （理由）と事実 結論 予想される反論 反論の反駁 主張の正しさの確認	序論 テーマの背景・課題 問い 問いの答えの予測＝仮説 本論 仮説検証の方法とその妥当性 検証の結果 結果の考察 結論 仮説の受容 or 否定	序論 課題文の主題の要約 常識の確認 常識に反する課題文の視点に 対する賛成 or 反対の表明 本論 賛成 or 反対の根拠と論証 （書き手の体験や情報） 結論 係争的問題への考察・提案

他教科との連携

- ビジネスで必須の 5 パラグラフ・エッセイは・・・

中学校の英語で「I think・・・because・・・」の「主張＋理由」の頭括型の定型表現を学び、高校で実際に「主張＋根拠＋主張」の 5 パラグラフエッセイを簡単な英語で書く。それにより、「主張すること」、「論証すること」、「頭括型で書き話す」訓練を行う。

（感想文に慣れた日本の児童生徒は、頭括型で書き話すことに心理的な抵抗を覚えるが英語で行えばその障壁を取り除くことができる）

- 大学のアカデミックなレポートで必要な「仮説検証」は・・・

「総合的な探究の時間」で**探究の方法論**として学び、実際に書く。国語では仮説検証の手本となる作品を教科書で読み、**仮説検証のイメージを持たせる**。

- 描写は「理科」の観察文や「図画工作」・「美術」の鑑賞等でも高度化可能。⁹

意識を変える練習問題：書くものには固有の
目的・構成・文章スタイルがある（『共感の論理』 p.163）

表コラム-2 書くものには固有の目的・構造・スタイルがある

	物 語	取扱説明書	レポート	学術論文
目的				
対象(読者)				
構成				
文章スタイル				

段階的読解法：中心を移動させる 書き方とセットにして段階的に発展させる

- 小学校

登場人物や自然と一体化する共感をもとに情緒的に物語を読み味わう
(自然観と利他を養う日本に特徴的な読解方法)

- 中学校

テキストを讀みの証拠・根拠として道具的に扱い「なぜ」に答える。

- 高校

讀みの仮説を立てて検証する：主題に関する問いをたててそれに答える形で仮説を作り、仮説を支持する証拠をテキストから拾って論証する。
(考察して結論づける)

では、話す・話し合うは？

• 話す

原理：「書く」様式の構成をそのまま使える。

理知的に説得する（論証/意見文の構成:ロゴス）

感情的に説得する（物語・感想文の構成：パトス）

学級での発表（論証/意見文の型が使える）

• 話し合う

話し合いの手順・ルールを作る（合意形成するにはどのような手続きが必要か考えさせる）⇐既に教科書にあり

まとめ

- 編成原理

前期初等教育では綴方が伝えてきた伝統と人間形成・道徳面をしっかりと教え、子どもの人格の核を形成する（躰は九つまでに）。

初等教育中期・後期からは技術として読み・書き・思考する力を発達段階に応じて段階的に発展させていく（**具体から抽象へ**の原則）。具体的には・・・

- まず鍵になる文章様式の手本となる作品を教科書で**読む**ことで、目的と**目的に合った構成、文章スタイル**があることを**知る**。
- 短くて良いので鍵になる文章様式を**書く**。最終的に複数の文章様式の違いを理解し、書き手の目的に沿って**選択して書ける**ようになることを目指す。**目的と構成をセット**で示す。
- 文章様式の違いが理解できたら、その目的と構成を「**話す**」ことへ応用する。

最終目標は何かを教師と共有することが鍵＝日本の社会と世界で求められるリテラシーとは何なのか。

本発表では、それを日本の伝統的価値観（文化）の伝授と多元的に思考し表現すること（選択し使いこなせる技術の習得）と提案した。

参考文献 ①

段階的な作文法

- ・ 香西秀信・中嶋香緒里. 2004.『レトリック式作文練習法ー古代ローマの少年はどのようにして文章の書き方を学んだか』 明治図書.
- ・ 渡邊雅子. 2021.『「論理的思考」の社会的構築ーフランスの思考表現スタイルと言葉の教育』 岩波書店.
- ・ 渡邊雅子. 2025.『共感の論理ー日本から始まる教育革命』 岩波新書.

目的に応じた作文法

- ・ 渡邊雅子.2016.「日本の国語教育における目的別文章ーアメリカ、フランスとの比較から」 日本教育評価研究会編『指導と評価』 第62巻735号, pp.38-40.(2016/03/01発行)
- ・ 渡邊雅子. 2025.『納得の構造ー思考表現スタイルの日米比較』 岩波現代文庫（11月14日刊行/東洋館出版社版も現在入手可能）.

参考文献②

小論文

長尾達也.2001.『小論文を学ぶー知の構築のために』 山川出版社.
大堀精一. 2018.『小論文書き方と考え方』 講談社.

高大接続

渡邊哲司・島田康行. 2017.『ライティングの高大接続ー高校・大学で「書くこと」を教える人たちへ』 ひつじ書房.